

2022年度 第1四半期決算説明会

2022年8月30日

【証券コード 4401】



2022年度 決算説明

第1四半期

2022年4月1日～2022年6月30日

代表取締役社長 城詰 秀尊

- 1. 2022年度 第1四半期連結業績 … P 3
- 2. 2022年度 連結業績予想の修正 … P13
- 3. 中期経営計画『ADX 2023』経営指標の上方修正 … P16
- 4. ご参考 … P21



1. 2022年度 第1四半期連結業績

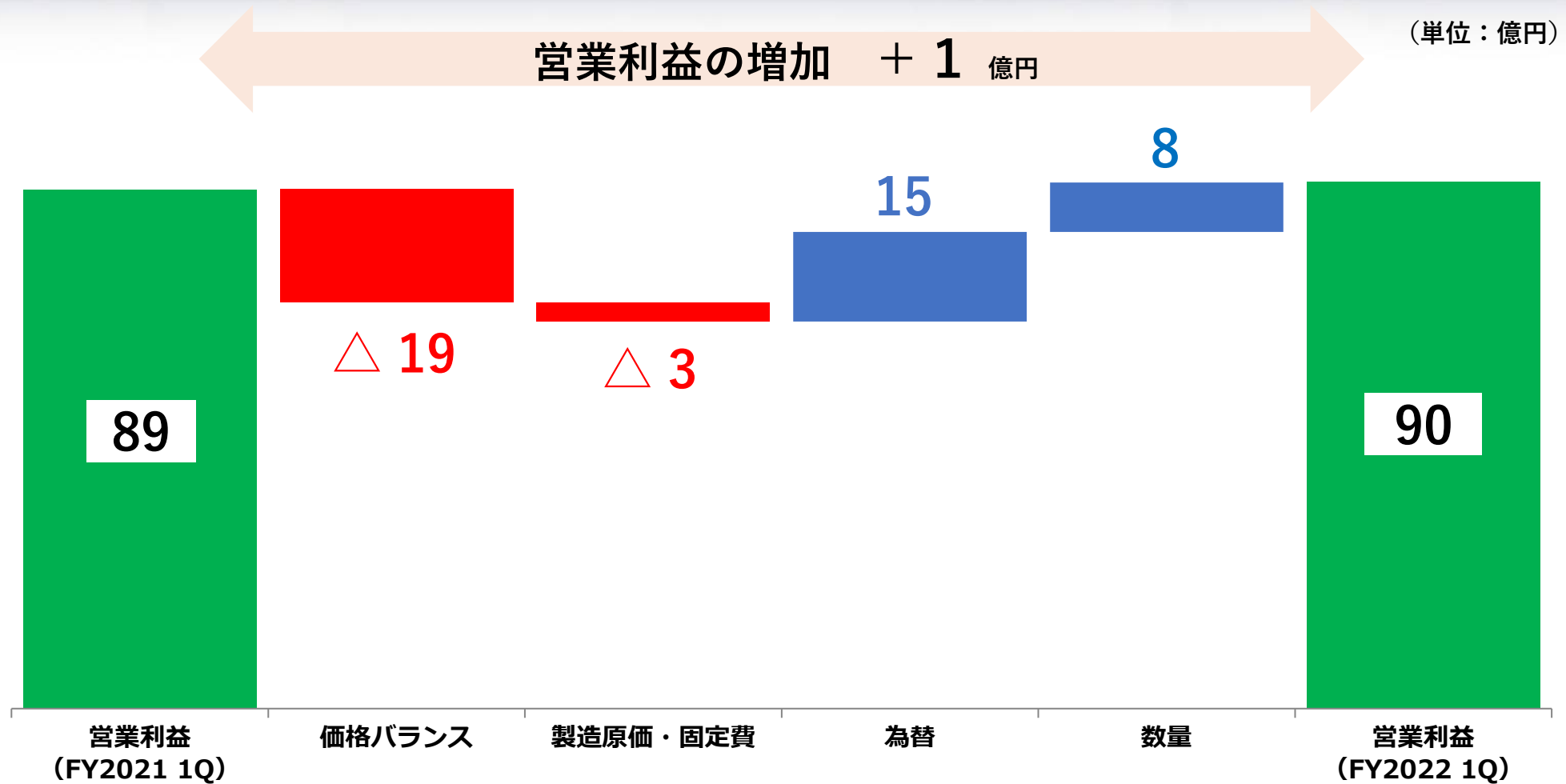
2022年度 第1四半期連結業績の概要

(単位：億円)

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	増減	増減率 (%)
売上高	840	1,017	177	21.1
営業利益	89	90	1	1.4
経常利益	92	104	11	12.9
四半期利益	59	61	1	3.1
1株利益	57.6円	59.6円	2.0円	

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

注2) 2021年度第1四半期は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

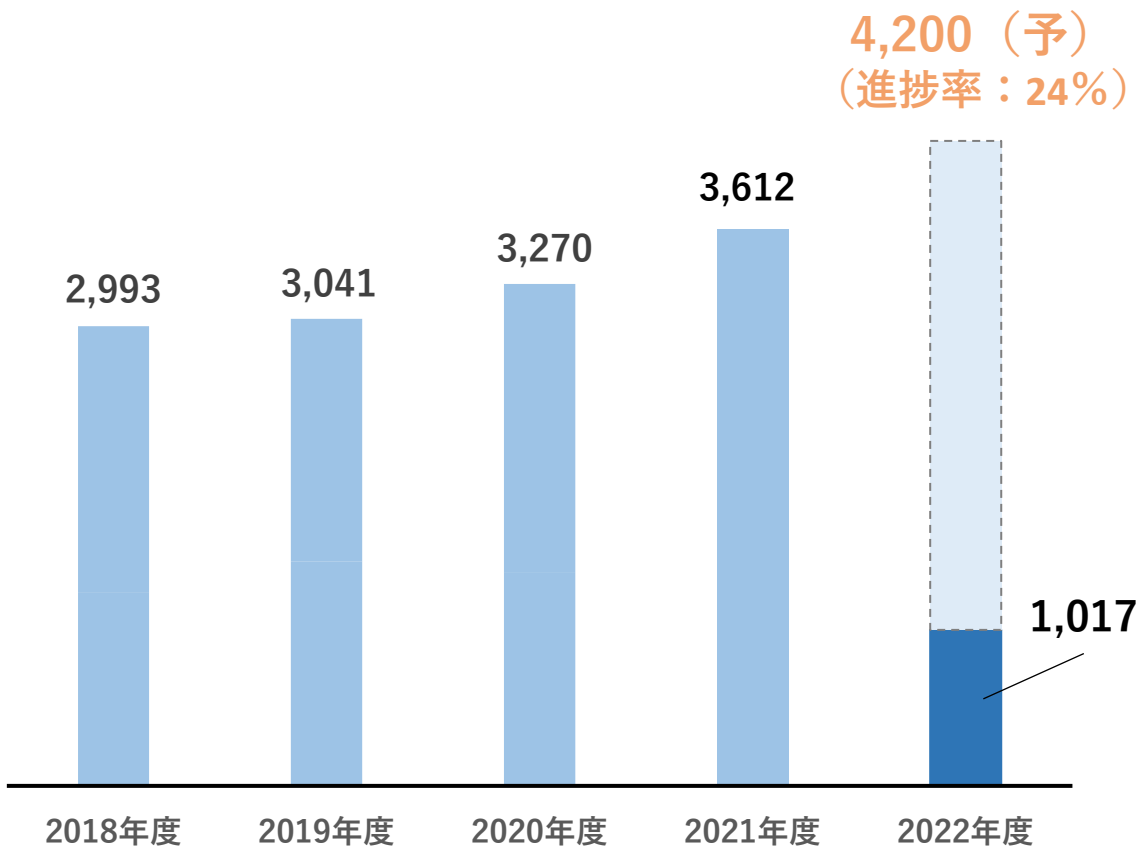


注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

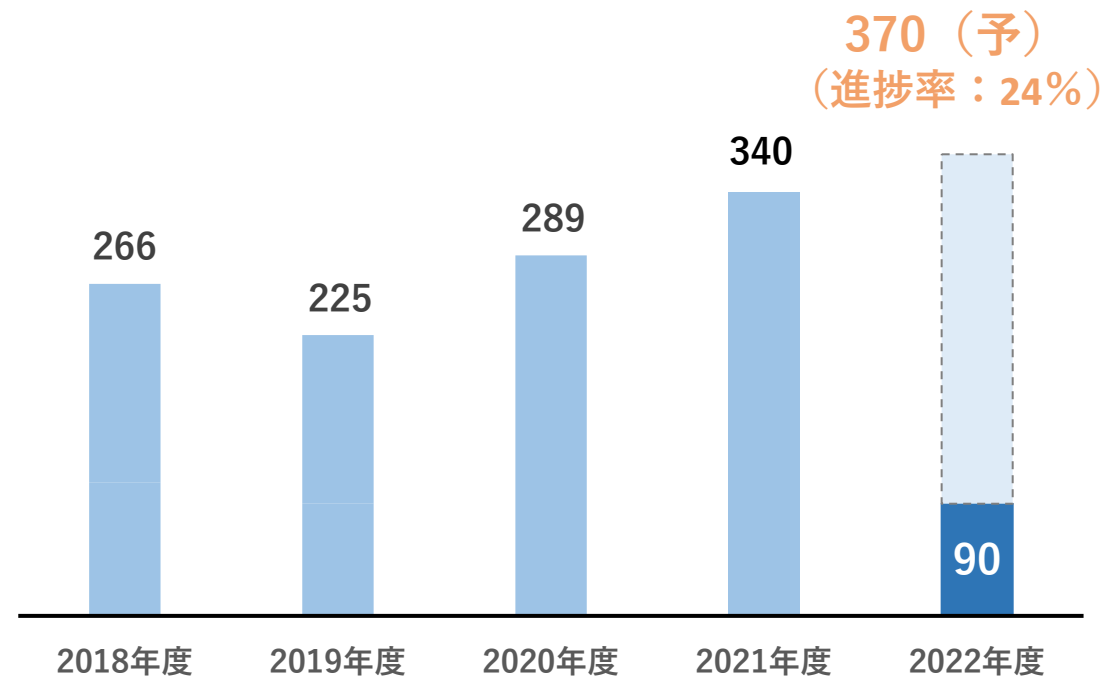
注2) 2021年度第1四半期は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

(単位：億円)

売上高



営業利益



注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

注2) 2021年度は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

2022年度 第1四半期連結業績（セグメント別）

2022年度 第1四半期連結業績

（単位：億円）

	2021年度 第1四半期	2022年度 第1四半期	増減	増減率（%）
売上高	840	1,017	177	21.1
化学品	480	555	75	15.8
樹脂添加剤	256	305	48	18.7
情報・電子化学品	85	91	5	6.9
機能化学品	137	158	21	15.7
食品	179	202	23	13.2
ライフサイエンス	165	240	75	45.5
その他	15	18	2	16.6
営業利益	89	90	1	1.4
化学品	70	72	1	1.9
樹脂添加剤	24	28	3	14.3
情報・電子化学品	26	25	△ 0	△ 3.7
機能化学品	18	17	△ 1	△ 6.2
食品	2	▲ 8	△ 11	-
ライフサイエンス	14	25	11	80.0
その他	1	1	0	5.7

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

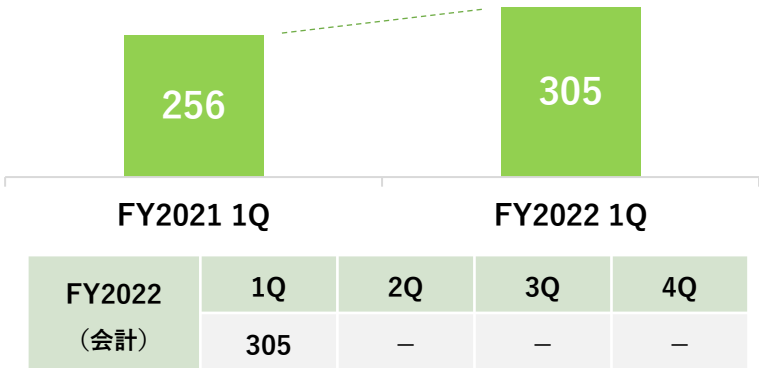
注2) 2021年度第1四半期は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

化学品事業（樹脂添加剤）

◆ 売上高

（単位：億円）

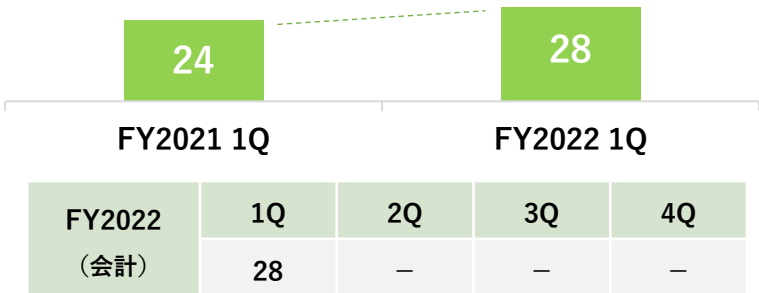
18.7%



◆ 営業利益

（単位：億円）

14.3%



注) 金額は億円未満を切り捨てて表示

売上高の主な要因（対前年同期）

- ・自動車向け製品は販売数量が減少したものの、販売価格改定と為替で増収。
- ・東南アジアの環境規制強化で、環境貢献製品「重金属フリー安定剤」の販売拡大。

◆ 建材・インフラ

好調 塩ビ用安定剤、重金属フリー安定剤

◆ 食品包装・医療

好調 透明化剤

◆ 自動車

伸長 核剤、ゴム用可塑剤

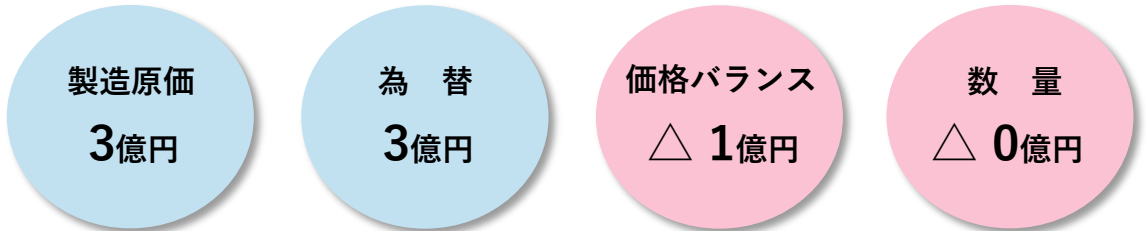
◆ プラスチック製品全般

伸長 酸化防止剤

◆ 家電（筐体）

低調 エンジニアリングプラスチック用難燃剤

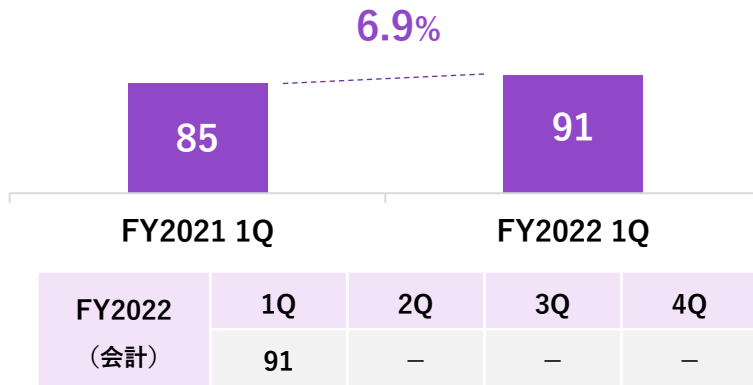
営業利益の主な要因（対前年同期）



化学品事業（情報・電子化学品）

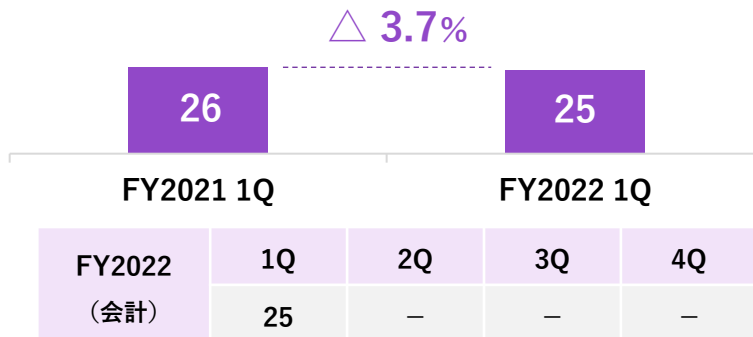
◆ 売上高

（単位：億円）



◆ 営業利益

（単位：億円）



注) 金額は億円未満を切り捨てて表示

売上高の主な要因（対前年同期）

- ・ デジタル化の進展を背景に、先端半導体向けに高誘電材料等の販売拡大。
- ・ パネルメーカーの生産調整による影響を受け、ディスプレイ関連材料の販売低調。

◆ 半導体

好調

DRAM向け 高誘電材料（新製品）

堅調

NAND向け 製品

先端リソグラフィ用途 光酸発生剤

◆ ディ스플레이

低調

光学フィルム向け 光硬化樹脂

カラーフィルター向け 光重合開始剤

液晶パネル向け ブラックマトリクスレジスト

営業利益の主な要因（対前年同期）

数量

△ 2億円

価格バランス

△ 0億円

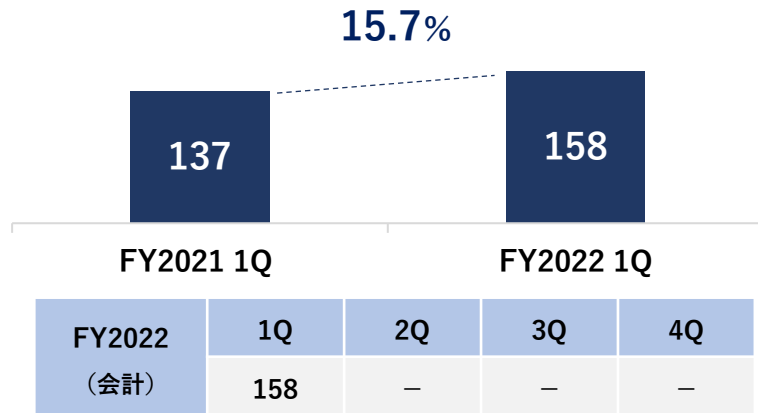
為替

1億円

化学品事業（機能化学品）

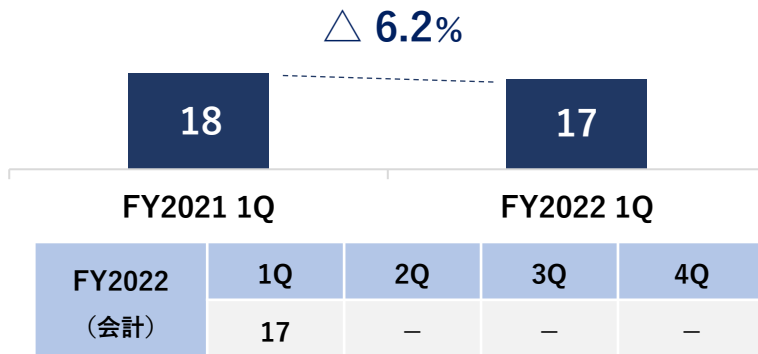
◆ 売上高

（単位：億円）



◆ 営業利益

（単位：億円）



注) 金額は億円未満を切り捨てて表示

売上高の主な要因（対前年同期）

- ・ 米国を中心にエンジンオイル用潤滑油添加剤の販売拡大（自動車の燃費向上に貢献）。
- ・ 国内外の化粧品市況が持ち直し、界面活性剤の販売回復。

◆ 自動車

好調

エンジンオイル用 潤滑油添加剤
構造接着用 特殊エポキシ樹脂

◆ 化粧品

堅調

界面活性剤

◆ 一般工業用

堅調

プロピレングリコール類、過酸化製品

営業利益の主な要因（対前年同期）

価格バランス

△ 4億円

固定費他

△ 1億円

数量

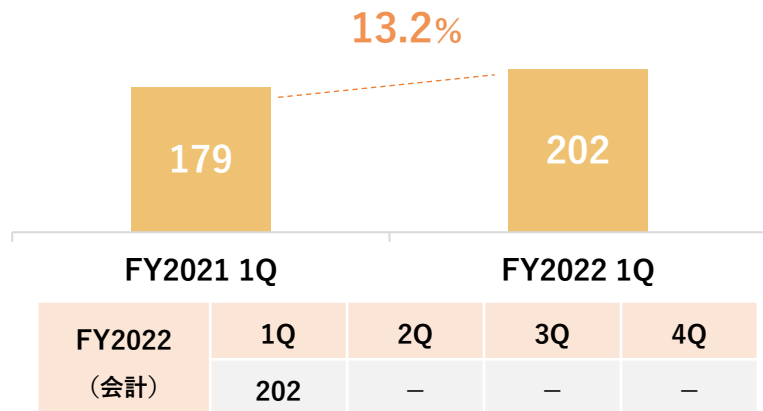
2億円

為替

2億円

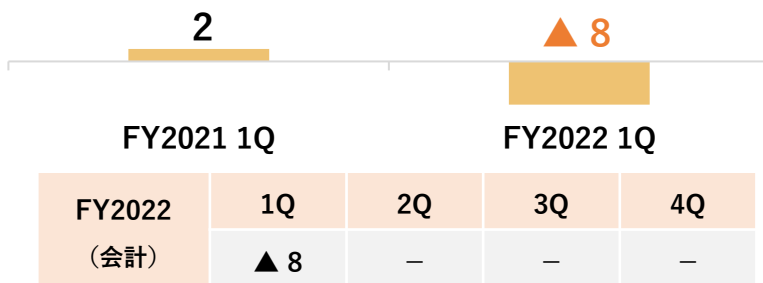
◆ 売上高

(単位：億円)



◆ 営業利益

(単位：億円)



注) 金額は億円未満を切り捨てて表示

売上高の主な要因 (対前年同期)

- ・ 中国でのロックダウンの影響を受けたが、国内で菓子パンや大袋菓子の需要が増加、マーガリン、ショートニング等の販売堅調。
- ・ 原料価格高騰に伴い、販売価格を改定したことも増収に寄与。

◆ 製パン、製菓

堅 調

マーガリン、ショートニング、フィリング

伸 長

機能性マーガリン「マーベラス」シリーズ

◆ 土産菓子

堅 調

フィリング

営業利益の主な要因 (対前年同期)

価格バランス
△ 7億円

数 量
△ 3億円

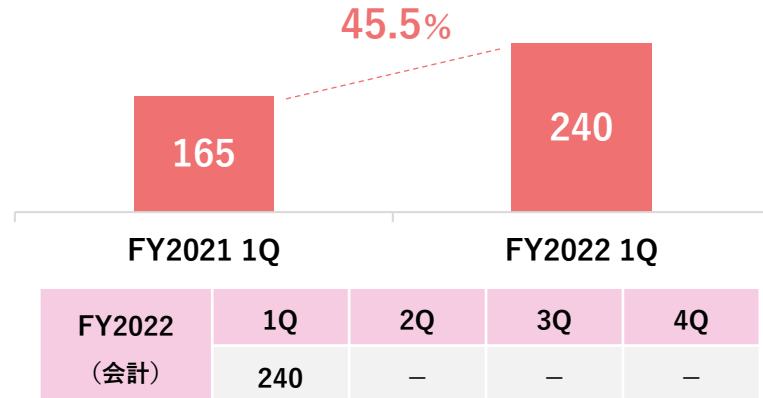
為 替
△ 3億円

製造原価
2億円

ライフサイエンス事業（日本農薬）

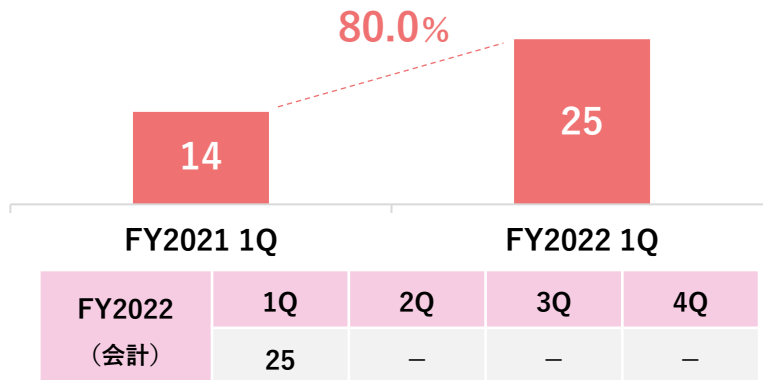
◆ 売上高

(単位：億円)



◆ 営業利益

(単位：億円)



注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

注2) 2021年度第1四半期は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

売上高の主な要因（対前年同期）

- ・ 温暖な気候が続いた北米でダニの発生が例年より多く、殺ダニ剤の販売が拡大。
- ・ ブラジルで主要作物の作付面積が拡大し、サトウキビ用除草剤の販売が拡大。

◆ 農薬

好調

北米 殺ダニ剤

ブラジル サトウキビ用除草剤

欧州 除草剤

日本 コルテバ社製品（販売契約締結し、昨年10月から販売開始）

◆ 医薬品

低調

爪白癬分野

外用抗真菌剤「ルリコナゾール」

営業利益の主な要因（対前年同期）

数量
12億円為替
11億円固定費他
△ 6億円価格バランス
△ 5億円

A decorative border consisting of various geometric shapes in red and blue, including triangles, squares, circles, and rectangles, arranged in a pattern around the edges of the page.

2. 2022年度 連結業績予想の修正

2022年度 連結業績予想の修正

(単位：億円)	前回発表予想 (2022/5/13)			今回修正予想 (2022/8/10)				増減		前年度実績
	上期	下期	通期 (a)	1Q実績	上期	下期	通期 (b)	額 (b)-(a)	率 (%)	2021年度
売上高	1,930	2,130	4,060	1,017	2,030	2,170	4,200	140	3.4	3,612
営業利益	156	214	370	90	156	214	370	0	0.0	340
経常利益	156	213	369	104	156	213	369	0	0.0	356
当期利益	98	122	220	61	98	122	220	0	0.0	236
1株利益	95.1円	118.4円	213.6円	59.6円	95.1円	118.4円	213.6円	0円	-	229.7円
		期初の前提		変更後の前提						
為替	円/\$	114.00		130.00						
	円/€	130.00		140.00						
ナフサ	円/KL	57,000		85,000						

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

注2) 前年度実績 (2021年度) は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

2022年度 連結業績予想（セグメント別）

(単位：億円)	前回発表予想			今回修正予想				増減		前年度実績
	上期	下期	通期 (a)	1Q実績	上期	下期	通期 (b)	額 (b)-(a)	率 (%)	2021年度
売上高	1,930	2,130	4,060	1,017	2,030	2,170	4,200	140	3.4	3,612
化学品	1,110	1,137	2,247	555	1,136	1,174	2,310	63	2.8	2,001
樹脂添加剤	590	603	1,193	305	610	625	1,235	42	3.5	1,068
情報・電子化学品	200	222	422	91	190	240	430	8	1.9	364
機能化学品	320	312	632	158	336	309	645	13	2.1	567
食品	405	432	837	202	394	436	830	△ 7	△ 0.8	733
ライフサイエンス	390	523	913	240	464	516	980	67	7.3	801
その他	25	38	63	18	36	44	80	17	27.0	76
営業利益	156	214	370	90	156	214	370	0	0.0	340
化学品	139	158	297	72	129	161	290	△ 7	△ 2.4	293
樹脂添加剤	47	48	95	28	46	47	94	△ 1	△ 1.1	108
情報・電子化学品	60	76	136	25	52	77	130	△ 6	△ 4.4	119
機能化学品	32	34	66	17	30	36	66	0	0.0	66
食品	2	8	10	▲ 8	▲ 12	6	▲ 6	△ 16	—	▲ 6
ライフサイエンス	15	44	59	25	39	42	81	22	37.3	48
その他	0	4	4	1	0	4	5	1	25.0	5

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

注2) 前年度実績(2021年度)は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

A decorative border consisting of various geometric shapes in red and blue, including triangles, squares, circles, and rectangles, arranged in a pattern around the edges of the page.

3. 中期経営計画『ADX 2023』経営指標の上方修正

■ 経営指標		2023年度（2024年3月期）	
		修正前	修正後
前提条件【為替】		107円/US\$, 119円/€	130円/US\$, 140円/€
財務指標	営業利益	350 億円 (売上高 3,800億円)	420 億円 (売上高 4,300億円)
	R O E	9%	9%
設備投資額		500 億円／3カ年	500 億円／3カ年 ※2
配当性向		30% 以上維持 ※1	30% 以上維持 ※1

※1 適切な還元を総合的に勘案し、安定配当の維持を基本とする

※2 カーボンニュートラルの実現に向けた環境投資を含む

『ADX 2023』 営業利益目標（セグメント別）

中期経営計画『ADX 2023』

(億円)

	2023年度（2024年3月期）			2022年度
	修正前	修正後	増減	連結業績予想 (2年目)
営業利益	350	420	70	370
化学品	260	330	70	290
樹脂添加剤	84	115	31	94
情報・電子化学品	110	145	35	130
機能化学品	66	70	4	66
食品	35	5	△ 30	▲ 6
ライフサイエンス	54	80	26	81

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示 注2) 「その他事業」の記載は省略

トピックス① | 設備投資 (情報・電子化学品)



ADEKA KOREA CORPORATION

先端半導体メモリ (DRAM) 向け 高誘電材料の生産設備 増強

投資金額

23億円

生産能力

現行比 2倍

着工

2022年11月
(予定)

営業運転
開始

2024年度中
(予定)



▲ ADEKA KOREA CORP.
全州第二工場 (外観)

半導体市場の動向・見通し

足元の動向

PC・スマホ向け

サーバー向け
(データセンター)

調整局面
(デバイスの出荷減)

先端材料の需要堅調

中長期の見通し

力強い成長が続く見通し

高度ICT社会の実現
～ 通信技術・データセンターの高度化、デバイスの高機能化 ～

ウエハ
出荷面積

材料の使用量
(製造工程増加)

微細化・パッケージ化
技術の進展

(次世代材料の開発・シフト)

増大

トピックス② | 自己株式の取得

- ◆ 11億75百万円を上限に実施。
- ◆ 資本効率の向上を図るとともに、将来の機動的な資本戦略に備える。

取得株式（総数）	50万株 発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合0.5%
取得価格（総額）	11億75百万円（1株につき2,350円）
取得日	2022年8月24日（水）
取得方法	東京証券取引所の自己株式立会外買付取引による買付け

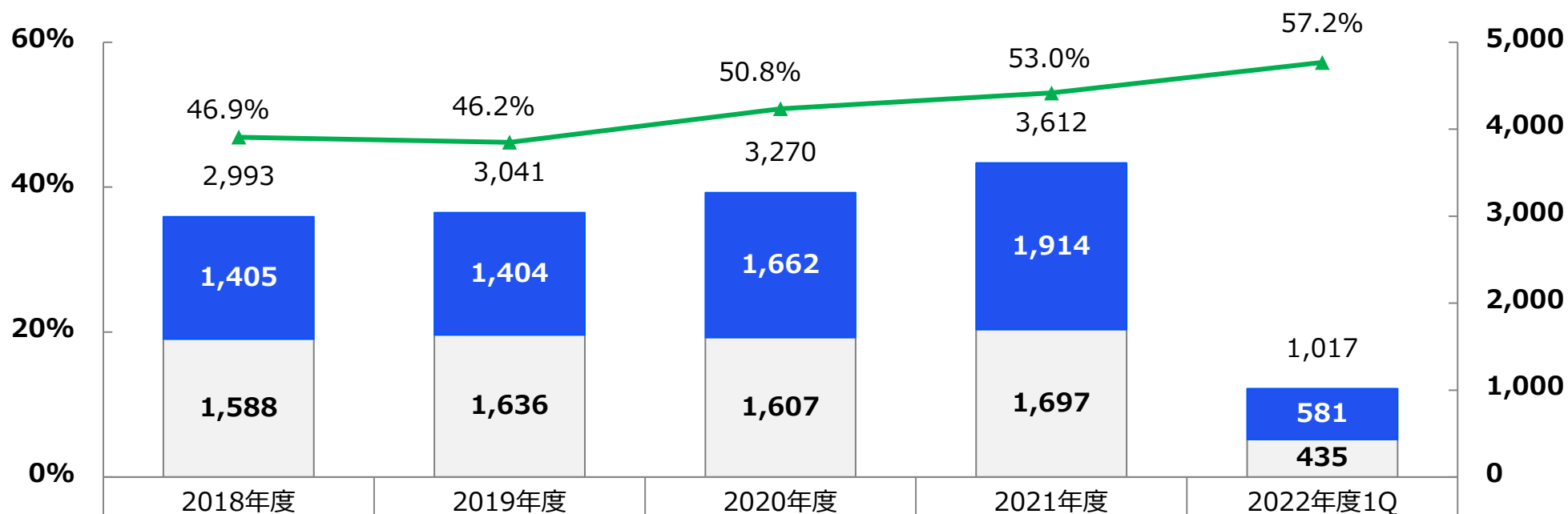
ご参考) 2022年3月末の自己株式保有状況

発行済株式総数（自己株式を除く）：103,437,658株 自己株式数：330,484株

4. 参考

ご参考 | 海外売上高

(単位：億円)



■ 海外売上高	1,405	1,404	1,662	1,914	581
■ 国内売上高	1,588	1,636	1,607	1,697	435
▲ 海外売上高比率	46.9%	46.2%	50.8%	53.0%	57.2%
売上高	2,993	3,041	3,270	3,612	1,017

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示

注2) 2021年度は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

ご参考 | 『ADX 2023』売上高目標（セグメント別）

(億円)

	2023年度（2024年3月期）			2022年度
	修正前	修正後	増減	連結業績予想 (2年目)
売上高	3,800	4,300	500	4,200
化学品	2,078	2,400	322	2,310
樹脂添加剤	1,007	1,250	243	1,235
情報・電子化学品	441	470	29	430
機能化学品	630	680	50	645
食品	814	850	36	830
ライフサイエンス	890	990	100	980

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示 注2) 「その他事業」の記載は省略

ADEKA

Add Goodness



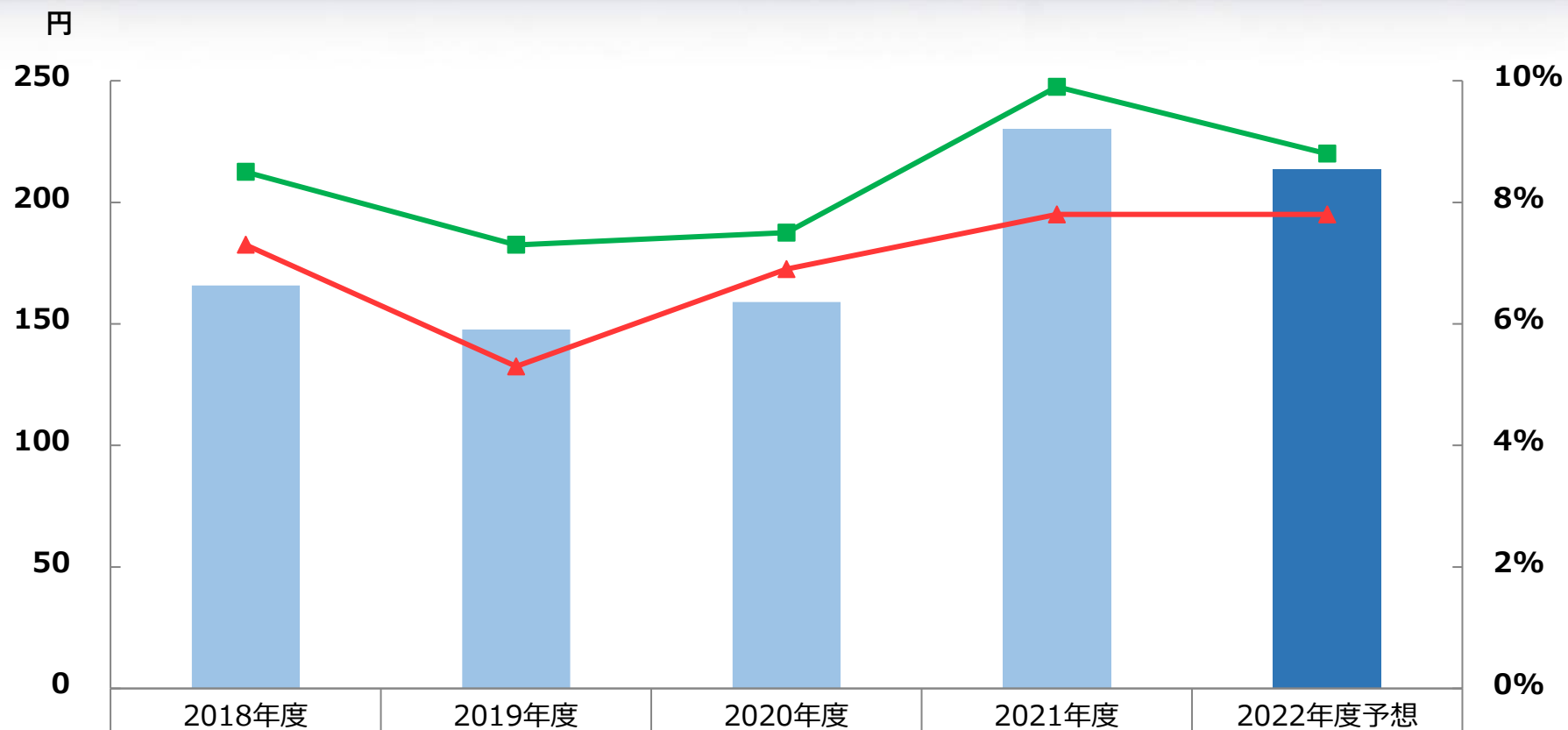
2022年度 第1四半期 決算説明補足資料

1. 連結決算補足資料
2. 経営指標等
3. ご参考

1 連結貸借対照表

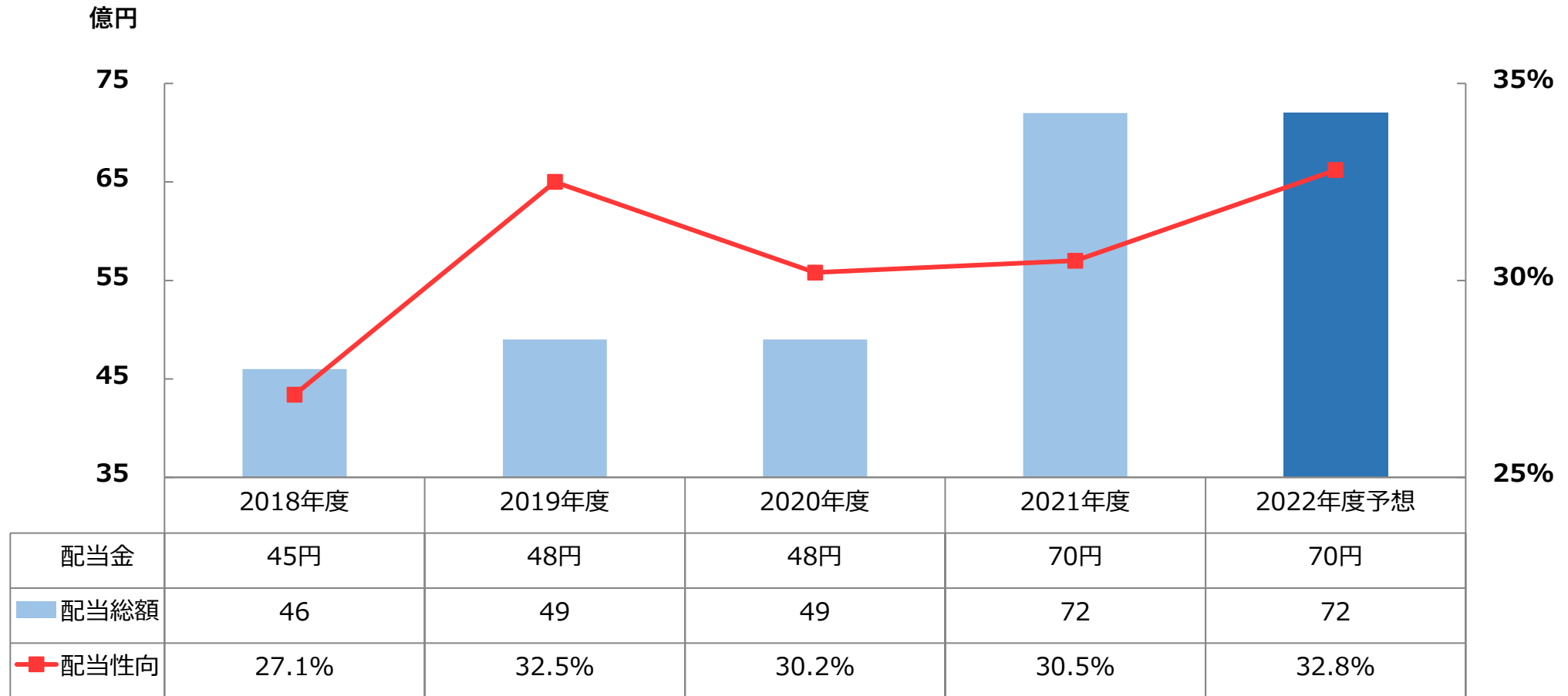
(単位：億円)	22/3末	22/6末	増減		22/3末	22/6末	増減
流動資産	2,938	3,135	197	負債	1,784	1,925	140
現金及び預金	842	773	△ 69	流動負債	1,148	1,330	182
受取手形及び売掛金等	1,004	1,091	86	固定負債	635	594	△ 41
棚卸資産	960	1,101	140	純資産	2,968	3,040	71
その他	130	169	38	株主資本	2,300	2,318	17
固定資産	1,814	1,829	15	資本金	230	230	-
有形固定資産	1,193	1,192	△ 0	資本剰余金	201	201	△ 0
無形固定資産	168	177	9	利益剰余金	1,880	1,898	17
投資その他の資産	452	459	6	自己株式	△ 12	△ 12	△ 0
				その他の包括利益累計額	199	235	35
				非支配株主持分	469	486	17
資産合計	4,753	4,965	212	負債・純資産合計	4,753	4,965	212

注1) 金額は億円未満を切り捨てて表示 注2) 22/3末は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

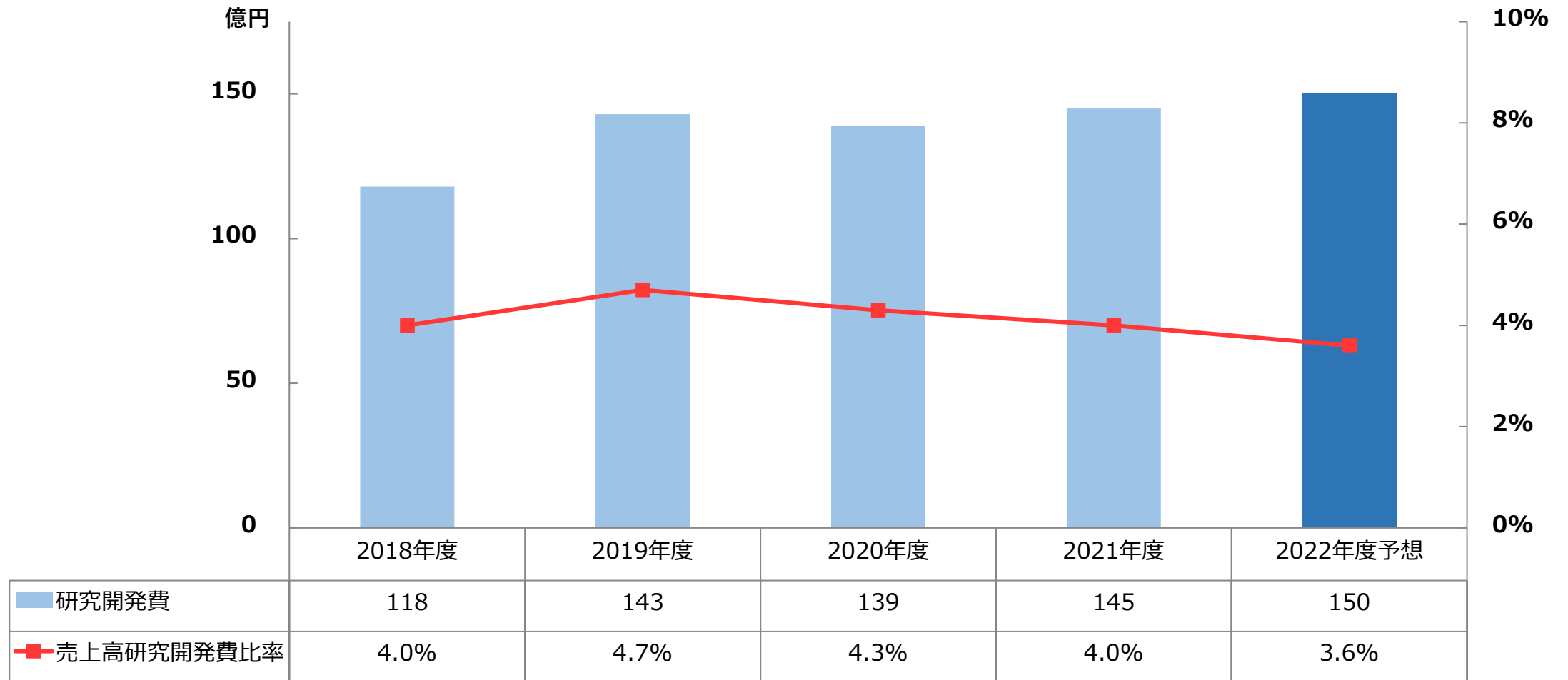


■ EPS (1株当り当期純利益)	165.8円	147.7円	159.0円	229.7円	213.6円
■ ROE (自己資本当期純利益率)	8.5%	7.3%	7.5%	9.9%	8.8%
▲ ROA (総資産経常利益率)	7.3%	5.3%	6.9%	7.8%	7.8%

注) 2021年度は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載

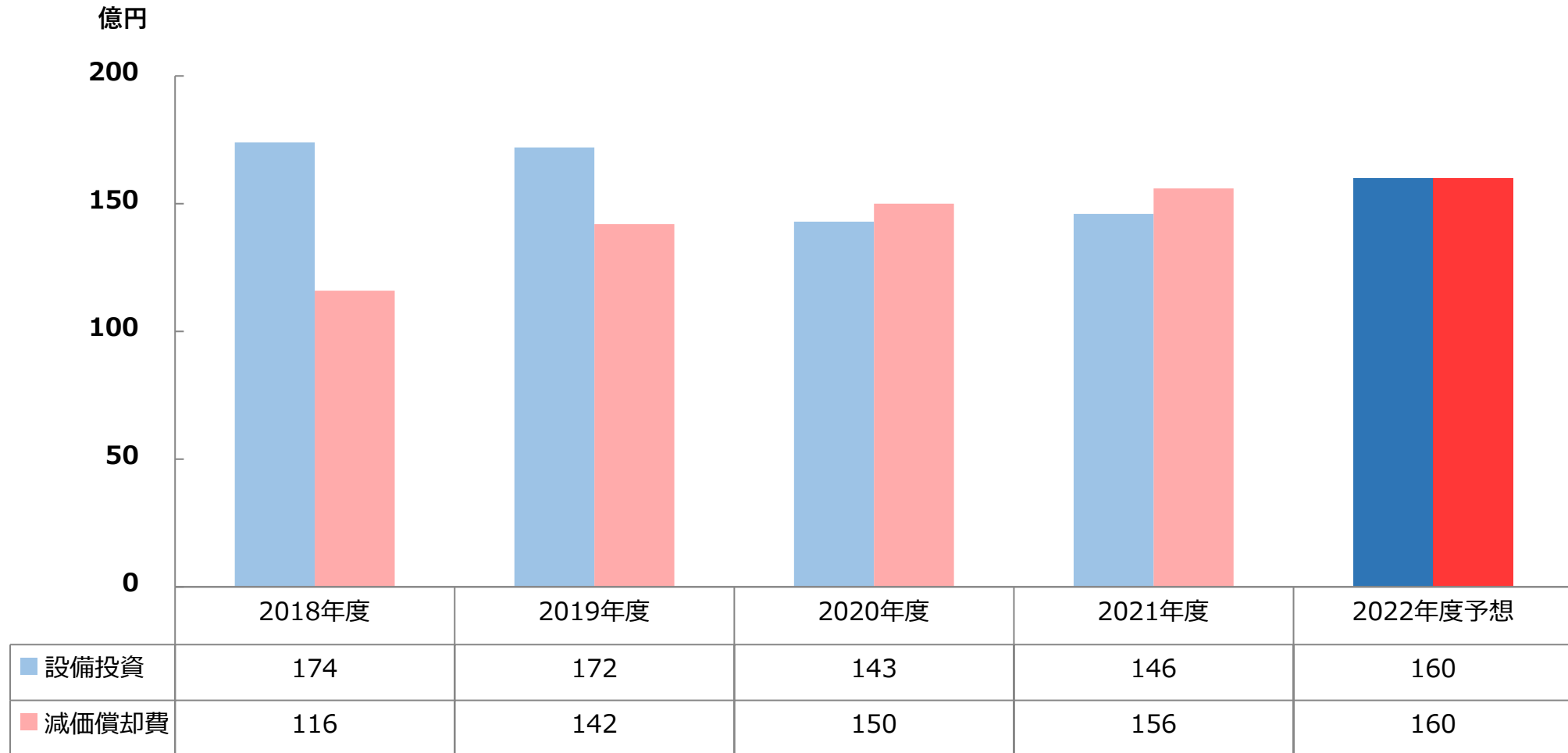


注1) 配当総額は億円未満を切り捨てて表示 注2) 2021年度の配当性向は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載



注1) 研究開発費は億円未満を切り捨てて表示

注2) 2021年度の売上高研究開発費比率は会計方針の変更による遡及適用後の数値を記載



注) 設備投資、減価償却費は億円未満を切り捨てて表示

3 事業区分別主力製品

事業区分		主要製品	
報告セグメント	化学品事業	樹脂添加剤	ポリオレフィン用添加剤、塩ビ用安定剤・可塑剤、難燃剤、その他
		情報・電子化学品	高純度半導体材料、電子回路基板エッチング装置及び薬剤、光硬化樹脂、光開始剤、画像材料、その他
		機能化学品	エポキシ樹脂、ポリウレタン原料、水系樹脂、界面活性剤、潤滑油添加剤、厨房用洗浄剤、化粧品原料、プロピレングリコール類、過酸化水素及び誘導品、水膨張性シール材、その他
	食品事業	マーガリン類、ショートニング、チョコレート用油脂、フライ・調理用油脂、ホイップクリーム、練込用クリーム、フィリング類、冷凍パイ生地、マヨネーズ・ドレッシング、機能性食品素材、その他	
	ライフサイエンス事業	農薬、医薬品、医薬部外品、動物用医薬品、木材用薬品、医療材料、その他	
その他	設備プラントの設計、工事及び工事管理、設備メンテナンス、物流業、倉庫業、車輛等リース、不動産業、保険代理業、その他		

業績予想・事業計画に関する注意事項

この資料に記載されている業績予想、事業計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、実際の結果は今後生ずる様々な要因によって、予想、計画と異なる場合があります。